

令和 7 年度 東京都立中野工科高等学校（定時制課程）学校経営報告

東京都立中野工科高等学校長

教育目標

教育基本法の精神に基づき、民主的な国家社会に貢献すべき工業人の育成を目指し、次の目標達成を期する。

- 社会の一員として社会に貢献し、責任を重んずる勤労精神の育成
- 互いの人格を尊重し、人権尊重の精神の高揚と健全な心身の育成
- 自ら学び考え行動し、個性や豊かな情操と創造力の育成

1 目指す学校

- (1) 挨拶を大事にし、職業人としての立ち居振る舞いができる生徒を育てる学校
- (2) 就職試験に合格できる学力の定着を図れる学校
- (3) 総合技術科の特色を生かし、教職員が学習指導、生活指導、進路指導、自立支援等に組織的に取り組む学校

スクール・ミッション

「社会の一員として社会に貢献し、責任を重んずる勤労精神の育成」を教育目標とし、ものづくり教育や学習指導において、基礎学力の定着を図ります。系統的なキャリア教育に基づく進路指導の充実から、個性の伸長と自立心を育み、生徒の興味・関心を高めることで創造力を伸長させます。

スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 社会的自立の基盤となる判断力・行動力
- ② 就職活動および社会生活で必要とされる基礎学力
- ③ 産業界において基盤となる、工業分野の知識・技術と課題解決能力
- ④ 意欲・関心を持って学びに向かう力
- ⑤ 互いに尊重し協同していく力
- ⑥ 社会生活に欠かせない理解力・表現力

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本の定着を図る。
- ② 工業の専門性の充実を図り、資格取得や就職に耐えうる能力を養う。
- ③ キャリアガイダンスの充実を図り、コミュニケーション能力や社会性を養う。
- ④ 「体験」の実施により、自身のキャリアプランを考える能力と態度を醸成する。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 指導に素直に従い、社会生活で役立つ知識や技能を意欲的に取組んでいける。
- ② 誰とでも仲良くでき協力し合い、他人を思いやることができる。

- ③ 機械・食品工業に関する技術やものづくりが好きで、工業高校の実験・実習に積極的に取り組んでいける。

2 具体的な学校像

- (1) 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、いじめや体罰のない学校
- (2) 産業界や関係機関との連携を図り、ものづくりを通して社会に貢献していく人材を育てる学校
- (3) 社会人として必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を着実に身に付けさせる学校
- (4) 社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身に付けさせる学校
- (5) 社会生活を送ることができる気力や体力、働く力を身に付けさせる学校
- (6) 基本的な生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった生徒を育てる学校
- (7) 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- (8) 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- (9) 教職員が一丸となって生徒に向き合い、必要な態度と能力を身に付けさせる学校
- (10) 保護者や地域社会から信頼され、保護者及び地域社会と一体となった教育を推進できる学校
- (11) 教育活動の円滑な実施に向け、自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- (12) 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- (13) 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

3 中期的目標と方策

- (1) 中期的目標
 - ①校舎の全面改築を計画的に進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持され、次代を担う工科高校を創設する。
 - ②夜間定時制課程の工科高校として、学力向上と系統的なキャリア教育の4年間の全体計画を策定する。
 - ③入学した全ての生徒の進路を実現するため、段階を踏んだ学習支援や関係機関との連携を図った自立支援等のプログラムを完成させる。
 - ④定時制課程ならではの良さを中学生、保護者、地域にアピールし、入試倍率を向上させる。
- (2) 方策
 - ①新校舎の完成を目指し、施設・設備に関する計画的な検討と備品管理を行う。また、A・B工区の完成に伴う引っ越しの計画を行う。
 - ②地域の関係団体及び企業等、産業界のニーズを把握するとともに、東京都や東京都中小企業振興公社、東京商工会議所、専門学校等の協力を得て、技術交流やインターンシップを計画し、社会や産業界との連携を強める学校を目指す。
 - ③夜間定時制課程設置の意義を踏まえ、カリキュラムマネジメントを実施し、教育課程の

編成、校内規定の見直し、募集対策、広報活動等について着実に計画・実施する。

4 今年度の取組目標と方策

(1) 学力と技術力の向上

- ①座学・実習においてICT機器の活用により確実に学力、技術力を高める。キャリア・パスポートなどを利用したポートフォリオを構築させる。
- ②工科高校資格取得アシスト制度を活用した資格取得や検定試験合格への挑戦、各種競技会・展示会への参加、課題研究発表会でのプレゼンテーションなど、具体的な目標達成のための指導を継続して実施し、生徒のやる気を高める。
- ③生徒が意欲的・主体的に学べるよう授業内容、指導方法、学習評価の在り方を工夫・改善する。特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。

(2) 中途退学者対応と規範意識の向上

- ①自立支援チーム継続派遣校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。
- ②生徒の実態に応じた校内規定の見直しを進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

(3) キャリア教育の充実

- ①4年間の系統的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。
- ②東京都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京商工会議所との連携による産業技術交流、インターンシップ等を実施する。
- ③工業系大学や専門学校との協定等、進学への進路開拓を行う。

(4) 生徒のチャレンジ支援

- ①ボランティア活動等を通して、地域社会に貢献することにより、達成感やボランティアマインドを育てる。
- ②部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ・参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。

(5) 学習指導要領に沿った学力観への転換と教員の授業力向上

- ①ルーブリックの策定により、教科間の情報・意見交換を活発にする。
- ②全ての教科・科目にアクティブ・ラーニングを導入するとともに、教科・類型横断的な授業を開発し、カリキュラムマネジメントを学校全体で進める。
- ③全日制課程と連携した相互授業観察を実施し、授業力の向上を図る。
- ④生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に活かし、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。

(6) 成人年齢引き下げによる事故防止と主権者教育の充実

- ①成人年齢の引き下げによる生徒が事故に巻き込まれないよう、消費者教育等の充実を図る。
- ②生徒会選挙や中野区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身に付けるための活動を展

開する。

(7) 教職員の働き方改革とサービスの厳正

- ①年間を通した職務のスケジュール化を図り、適切な進行管理の下、効率的に遂行する体制を構築する。
- ②「Scrap and Build」に努め、業務の効率化と諸会議のスリム化を進める。
- ③サービス事故防止研修を計画的に実施するとともに、社会や他校での事故を教訓にして、サービス事故防止を徹底する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教務部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の適正な実施 2. 諸帳簿の適正な管理 3. 入選の適切な対応 4. 募集対策の充実 5. 広報活動の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各教科の協力を得て期限前の提出とホームページへの掲載が終了し、現在は支障なく教育活動が行われている。 2. 教務部内で互いに声を掛け合い、複数の教員で業務を確認して事前に仕事のミスを防止した。 3. 入学者選抜業務に向けた事前準備を適正に進行することができた。 4. 学校説明会の開催など計画通り進めることができた。 5. 近隣の4区合計75校に追加で板橋区にも学校案内やポスターを郵送した。また、中野区の子供食堂など学習支援団体にも学校案内を送付した。その結果、第一次募集には昨年度の2倍の受検者になった。
生徒部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中途退学者対応と規範意識の向上 2. 生徒のチャレンジ支援 3. 成人年齢引き下げによる事故防止と主権者教育の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. SC・YSWによる生徒全員面談を毎学期実施している。状況に応じて個別相談と支援を組織的に進めている。外国籍生徒については、日本語支援アシスタントの方に面談補助の支援をお願いしている。SC・YSWによる講話(内容は学年ごとに設定)を毎学期実施している。今年度の特別指導件数は1件となった。 2. 11月にボランティア活動を実施した(生徒と野方南自治会と)。区役所と消防署と連携して12月に防災教室を実施した。部活動はスポーツレクリエーション部(毎週月木曜日)、音楽部(中工祭での演奏補助、定期演奏会(3月下旬))、ボランティア部(野方児童館でのイベントのお手伝い)の活動が活性化している 3. 野方警察署と連携してセーフティ教室を11月に実施した。中野区選挙管理委員会と連携して模擬選挙等の体験的な取組を9月に予定していたが、7月に衆院選が7月に実施されたため、時期を変更して7月の選挙前に実施した。
進路部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年間をととしたキャリア教育の充実 2. インターンシップの充実 3. 教職員の企業開拓 4. 就職試験に向けた取組 5. 定着率・離職率の調査の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年と連携した進路講話をはじめ、行事等での体験からキャリアを学ぶなど、学校全体計画であるキャリア教育年間指導計画に沿って取り組んだ。 2. 進路情報提供企業イベントに参加させ職業体験と会社説明を受ける機会を設けた。オープンカンパニーを計画・実施、3年2名、2年1名が参加した。 3. 就職相談会に参加し、約30社の近隣県の新規企業開拓ができた。進路選択の幅拡張と、外国籍生徒の就職先の開拓が課題である。 4. 今年度卒業生は1名で進学希望であった。担任国語科の小論文指導や多くの職員協力のもと面接指導を実施した。第一希望の大学へ進学が決定した。 5. 卒業生が就職した企業2社が来校し追跡の調査ができた。今後も自己の適性と興味のある職種調べに時間をかけ、ミスマッチ防止をはかる。
1学年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み 2. 保護者との連携 3. 就労活動の検討 4. 行事の活性化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学当初からの継続した助言により、生徒の生活リズムを徐々に確立できている。年度末まで引き続き生徒への声かけを行っていく。 2. 生徒の状況に即して保護者への連絡を行うことで、保護者との生徒情報の共有や、協力体制の構築を行うことができています。 3. 現在2名の生徒が定時制に通学しながら就労している。就労状況について引き続き把握するとともに、適宜助言を行っていく。 4. 生徒が主体的に学校行事に取り組めるよう、声かけを行っている。今後も学校生活への主体的な参加を支援していく。
2学年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み 2. 保護者との連携 2. 進路に向けた意識付け 3. 4. 特別活動等への積極的な参加 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席が目立つ生徒もいたものの、全体として出席状況は概ね良好であった。就労活動との両立を意識させながら、来年度以降も生徒への働きかけを行っていく。 2. 生徒の状況に即して保護者への連絡を行うことで、学校における生徒の活動についての情報共有を行うことができています。 3. 生徒が志望するおおまかな進路について、進路部・YSWと連携して情報提供を行っている。外部の説明会等にも少しずつ参加する様子見受けられるため、次年度以降も継続する。 4. 文化祭(中工祭)やスポーツ大会等の行事、また部活動などへの積極的な活動を推奨し、生徒もそれぞれの活動に全力で取り組むことができた。

3 学 年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み 2. 保護者との連携 3. 就労活動の検討 4. 行事の活性化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. HRを活用して、進路に紐づけた指導を継続的に行った。一年間を通してほとんど欠席することなく学校生活を送ることができた。次年度も継続する。 2. 保護者会や普段の電話連絡等を通し、生徒情報の共有を保護者と密に行うことができた。次年度も継続する。 3. 生徒が志望する進路について、大まかな見通しを立てることができた。次年度は進路実現のための取り組みを集中的に行う。 4. 地域ボランティアへの参加や、文化祭における学年を横断した活動を通して、生徒が主体的に行事に取り組める環境づくりに努めた。生徒の主体性は次年度も引き続き涵養する。
4 学 年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み 2. 保護者との連携 3. 進路活動 4. 行事の活性化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃から遅刻・欠席をしないよう指導することと、万が一遅刻・欠席する可能性がある場合には事前に連絡することを徹底し、時間意識を育てることができた。 2. 日頃から保護者との連携を密にすることで、生徒の学習や生活、進路実現について協力しながら指導することができた。 3. HRなどを通し、継続して進路指導を行うことにより、生徒自身が希望する進路を実現させることができた。 4. 地域ボランティアへの参加や、防災士としての学校行事への参加などを通して、生徒が主体的に活動に取り組める環境を作ることができた。
各 教 科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資格取得と検定受検の促進 2. 授業や実習における規範意識の向上 3. 授業力向上に関する取り組み 4. 日本語指導 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度は基礎製図検定に合格した生徒が2名だった。さらに進路意識の向上をはかりながら資格取得へチャレンジする意欲を高める必要がある。 2. 授業開始・終了時に挨拶を励行させ、授業中の机上に必要なものを出させない指導を徹底させた。今後も継続して指導を実施する。 3. ICT機器などを使った授業を約8割の教職員が実施した。今後も利用を促進しわかりやすい授業を実施する。 4. 授業前の日本語の勉強の参加状況が振るわず、夏季休業前に確認テストを行い、クラスを2つに分けて講師を増やした結果、参加率は上昇した。しかし、JLPTのN2合格には至らず、さらなる改善が必要である。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
経営企画室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校経営状況の把握と分析 2. 学校経営参画の推進 3. 適正な事務運営 4. 施設・設備の保全管理 5. 校舎改築準備の適正管理 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校経営状況の達成状況を検証し、必要な情報を収集分析することにより効果的な学校経営に資することができた。 2. 教職員と連携し、行政視点をもって相互に課題の解決に取り組んでいる。 3. 学校経営計画を把握し、根拠や規則に基づいた事務処理を行い、日常的に業務進捗確認体制を築いてきた。引き続き業務の適正化を図っていく。 4. 設備点検を定期的に行い、劣化・破損・故障箇所の速やかな状況の整理と対応を行った。今後もこれを継続して行う。 5. 校舎改築工事（実習棟）に加えて、令和8年1月よりグラウンド改修工事が開始となった。両工事とも進捗率と教育活動のバランスを取ることが肝要である。また、新実習棟落成後、現実習棟は令和9年4月以降、直ちに解体工事を着手する見込みである。物品等の移設、廃棄が重要課題となるので、学校全体の取り組みとするより一層の意識醸成が必要である。
教育課程委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の編成 2. 教育課程の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観点別評価を一部改善に運用上問題ないことを確認した。 2. 校内規定の一部を見直し、運用上問題ないことを確認した。
図書運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の運営に関する取り組み 2. 生徒の図書館利用の向上の検討 3. 受託者への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械・食品工業の2類型が必要とする資料を、長期的視点で計画的に選書できている。改築工事も見据えた閉架書庫の整理を実施。 2. 図書だよりを通じての読書啓発が成功し、来館者の増加に繋がっている。 3. 経営企画室と常時連携して、仕様書に基づいた図書館運営が出来ている。
給食運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担任や栄養士と連携した生徒の喫食率向上の検討 2. 食物アレルギーに関する対策 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養面を配慮した給食や生徒のニーズを踏まえた給食を提供することにより喫食率向上に取り組むことができた。 2. 健康調査・健康診断結果やアレルギー管理指導票に基づいて食物アレルギーに関する対策を行った。
学校保健委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の健康づくりの推進 2. 学校医等と連携した生徒の健康の促進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一斉健康診断結果・健康課題・生徒の状況を把握して学校保健計画を立案して実施した。 2. 学校保健委員会で健康診断結果・健康課題について情報共有を行い課題解決のため検討した。
ITリーダー会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. Teams の適正な利用 2. HP に関する取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Teams 内でのトラブル（生徒間および生徒・教員間）は0件であった。 2. IT リーダーを除く、3 割程度の教員が HP 更新を行えている。
業者選定委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業者選定に関する検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 9、11月に実施し業者を適正に選定した。今後も適宜委員会を開催し公正な業者選定を実施する。
SC委員会・いじめ対策委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクールカウンセリングに関する検討 2. いじめに関する検討 3. YSWに関する検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月1回のSC・いじめ対策委員会を実施して生徒情報を共有して生徒理解につなげている。 2. 学期に1回いじめアンケートを実施して、SC面談等につなげている。結果については全職員で情報共有して方策を検討している。 3. YSWとSC、進路部、各学年担任と連携して就労支援を適切に実施できている。
学校サポートチーム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急時いじめ対応に関する検討 2. 外部委員と連携方法の検討 3. SC・いじめ対策委員会との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回、SCには日常の授業なども見学していただきながら生徒の情報を共有して生徒理解につなげた。 2. クラス担任、教科担任、生徒部などの連携により緊急対応してしている。 3. 学期に一回のアンケートにより生徒同士の関係や心のケアに取り組めている。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教科書選定委員会	1. 教科書の調査研究 2. 教科書の選定	1. 新規発行された教科書全て調査研究を完了した。今後も本校生徒に適した教科書の採択に向けた調査研究を実施する。 2. 教科書選定委員会を実施し、令和8年度使用教科書届けを提出し教育委員会に採択された。今後も継続して調査研究及び生徒の実態を踏まえ選定業務を適切に実施する。
防災教育委員会	1. 学校安全計画に関する検討 2. 地域と連携した防災教育の検討	1. 6月と1月に防災教育推進委員会を開催し関係機関との連携の中で本校の学校安全計画に関する検討を行った。 2. 野方消防署と中野区防災課と連携し、防災教育を実施することができた。来年度は、より多くの体験活動を実施し、防災に対する意識を高めさせる。
補助金審査委員会	1. 補助金に関する検討 2. 保護者対応	1. 9, 12, 1, 3月に委員会を実施し、補助金申請者を了承した。今後も対象者に申請を促す指導を実施する。 2. 保護者への周知を7月に実施し、その後は、審査会後に担任から保護者への周知を促した。今後も保護者と連携して申請を促す指導を実施する。
安全衛生委員会	1. 職場における安全衛生に関する検討 2. 職員の健康維持	1. 毎月1回の委員会を開催し、各課程、経営企画室と情報交換を行い、産業医を中心に労働環境の改善ができた。 2. 職員の健康診断結果や空気環境の測定結果を把握し対応できている。
改築委員会	1. 旧校舎の解体、新校舎の建設に関する検討 2. 引越作業に関する検討	1. 毎週1回、改築に伴う会議を現場事務所にて実施した。また、学校運営に支障がないように教職員に周知することができた。 2. 引越移転作業についてスケジュールの調整、作業内容の検討・周知を行った。